

## 周産期医療に係る現状（統計数値）について

### 1 人口動態

令和 2 年の出生数を平成 22 年と比較すると、約 31%減少しているが、低体重児の割合は増加している。また、母の年齢は 29 歳未満の割合が減少している一方で、35 歳以上が 6.6 ポイント増加している。

また、周産期死亡率は低下傾向にあるが、年によって変動がある。

項目	H22 年	R 2 年
出生数	9,745 人	6,718 人
低体重児（2,500g 未満）数（割合）	916 人（9.4%）	648 人（9.6%）
母の年齢		
15～19 歳	113 人（1.1%）	46 人（0.7%）
20～24 歳	1,401 人（14.4%）	642 人（9.6%）
25～29 歳	3,125 人（32.1%）	1,963 人（29.2%）
30～34 歳	3,138 人（32.2%）	2,265 人（33.7%）
35～39 歳	1,681 人（17.2%）	1,415 人（21.1%）
40～44 歳	280 人（2.9%）	377 人（5.6%）
45～49 歳	7 人（0.1%）	10 人（0.1%）
50 歳～		
〔35 歳以上計〕	〔1,968 人（20.2%）〕	〔1,802 人 26.8%〕

（出典：人口動態統計（厚生労働省））

### ○出生数



## ○低体重児

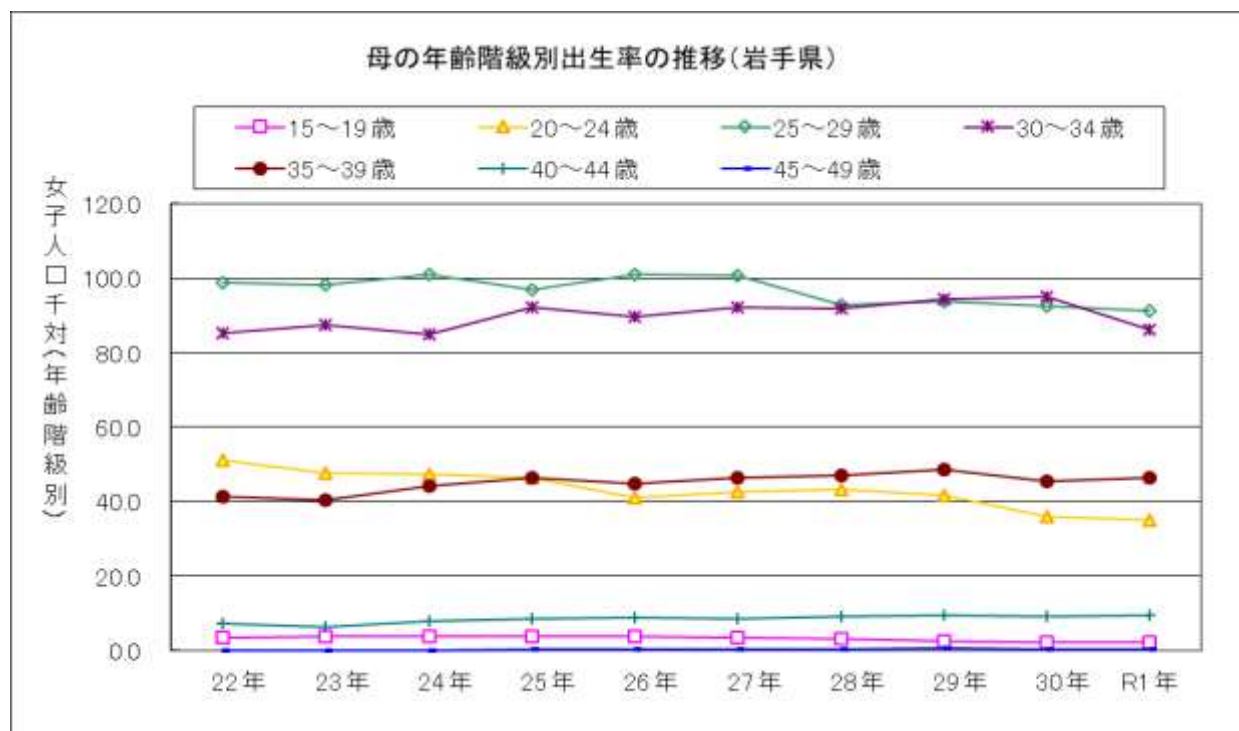
出生時の体重別出生数及び割合の推移

(単位) 人 (%)

年次	出生数 (A)	低出生体重児数					出生数に 対する割合 (B/A) % 岩手県	出生数に 対する割合 % 全国
		極低出生体重数		1500 g ~ 2000 g 未満	2000 g ~ 2500 g 未満	総 数 (B)		
		1000 g 未満	1000 g ~ 1500 g 未満					
H22年	9,745	35	46	112	723	916	9.4	9.6
H23年	9,310	27	52	105	658	842	9.0	9.6
H24年	9,276	32	42	116	673	863	9.3	9.6
H25年	9,231	27	40	116	710	893	9.7	9.6
H26年	8,803	30	47	121	660	858	9.7	9.5
H27年	8,814	29	37	115	629	810	9.2	9.5
H28年	8,341	24	44	123	625	816	9.8	9.4
H29年	8,175	24	31	102	639	796	9.7	9.4
H30年	7,615	28	39	103	600	770	10.1	9.4
R01年	6,974	24	42	97	529	692	9.9	9.4
R02年	6,718	28	36	85	499	648	9.6	9.2

出典：人口動態統計（厚生労働省）

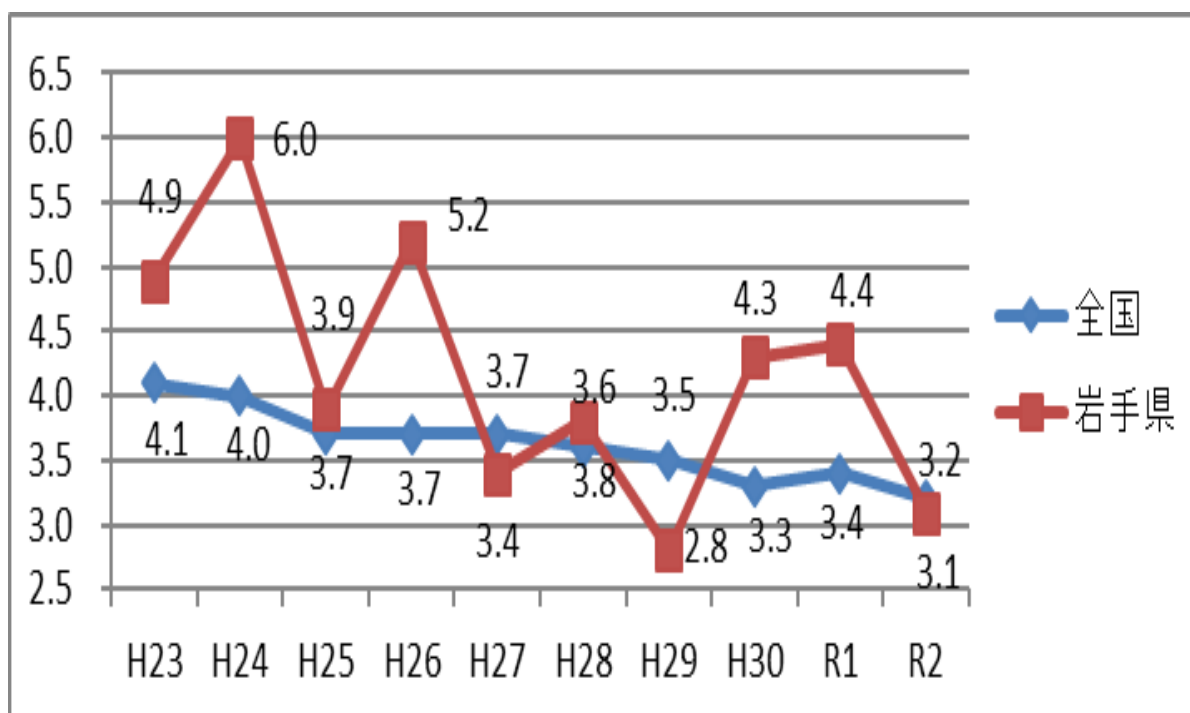
## ○妊産婦等の状況



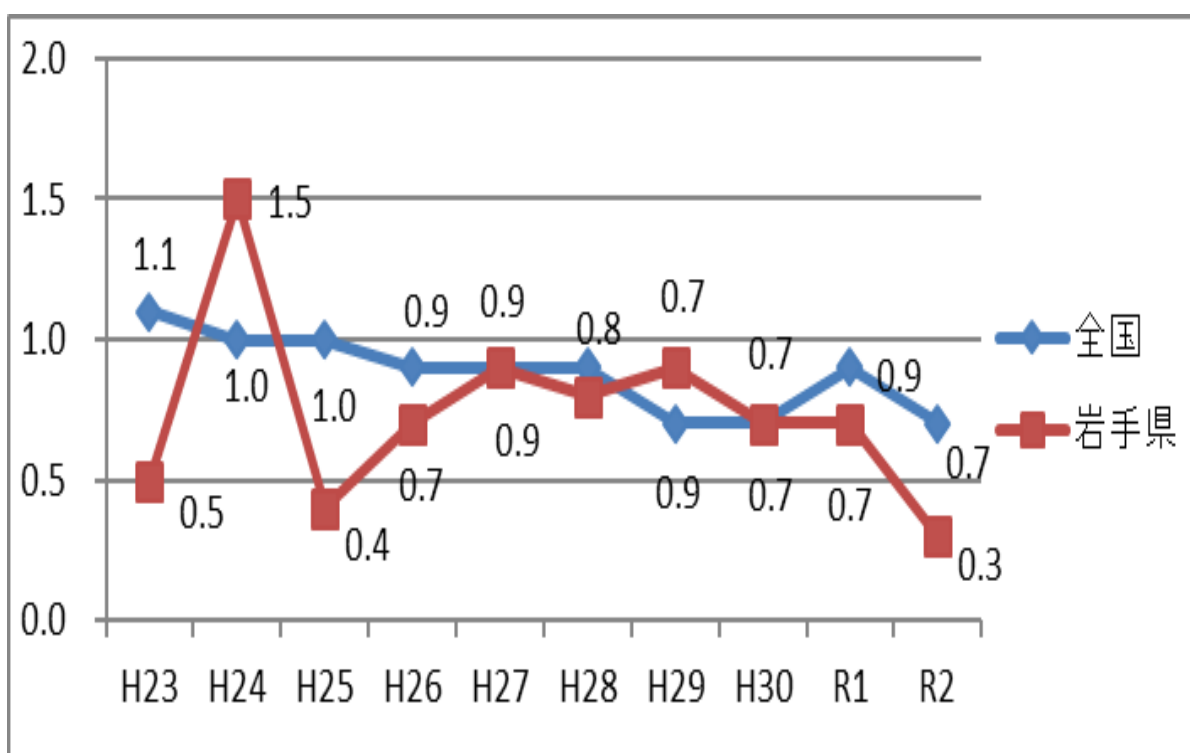
出典：H30までは保健福祉年報（県保健福祉部）

R1年以降は国立社会保障・人口問題研究所調査研究結果 ※R2年は公表されていない。

○周産期死亡率（出産千対）



○新生児死亡率（出産千対）



## 2 医師数

※ 医師・歯科医師・薬剤師統計は隔年調査であり、令和2年調査結果は、令和4年3月公表予定であること。

〔小児科医〕盛岡圏域の割合は増加しているが、県全体としては横ばいとなっている。

(単位：人)

区 分	H26		H28		H30		
	医師数	15歳未満 人口10万対	医師数	15歳未満 人口10万対	医師数	15歳未満 人口10万対	対盛岡 比(%)
全国	16,758	103.2	16,937	107.3	17,321	112.4	—
岩手県	141	90.4	138	93.9	142	101.4	69.3
盛岡	79	130.1	78	134.5	82	146.4	100.0
岩手中部	17	59.6	18	66.7	17	65.9	45.0
胆江	9	53.6	8	50.0	7	46.0	31.4
両磐	8	52.7	8	57.1	9	67.1	45.8
気仙	8	119.1	7	116.7	10	173.6	118.5
釜石	5	100.0	4	80.0	2	45.2	30.9
宮古	6	64.5	6	66.7	6	74.5	50.9
久慈	4	55.3	4	57.1	4	64.3	43.9
二戸	5	81.6	5	83.3	5	95.5	65.2

※ 国の統計（集計）上、複数の診療科に従事している場合の主として従事する診療科と、1診療科のみに従事している場合の診療科に従事する医師数であること。

※「対盛岡比」は、H30の盛岡医療圏（15歳未満人口10万対医師数）を100とした場合の比率

〔産婦人科医〕県全体としては横ばいであり、盛岡圏域が半数を占めている。

(単位：人)

区 分	H26		H28		H30		
	従事者数	15～49歳 女子人口 10万対	従事者数	15～49歳 女子人口 10万対	従事者数	15～49歳 女子人口 10万対	対盛岡 比(%)
全国	11,085	42.2	10,854	43.6	11,332	44.6	—
岩手県	100	43.1	102	45.5	98	45.4	65.9
盛岡	55	56.1	56	58.9	52	68.8	100.0
岩手中部	10	24.8	12	30.8	13	41.8	60.7
胆江	6	26.1	6	27.3	5	28.6	41.6
両磐	9	43.4	10	50.0	11	70.1	101.8
気仙	5	50.0	5	55.6	5	73.0	106.0
釜石	2	27.6	1	14.3	1	18.5	26.9
宮古	5	37.8	5	38.5	4	42.4	61.5
久慈	2	19.7	1	10.0	0	0.0	0.0
二戸	6	68.0	6	75.0	7	114.3	166.0

※ 国の統計（集計）上、複数の診療科に従事している場合の主として従事する診療科と、1診療科のみに従事している場合の診療科に従事する医師数であること。

※「対盛岡比」は、H30の盛岡医療圏（15～49歳女子人口10万対医師数）を100とした場合の比率

(出典：医師・歯科医師・薬剤師統計（厚生労働省）)

### 3 助産師数

県全体として概ね横ばい傾向である。

(単位：人)

区 分	H26	H28	H30	R02
全国	33,956	35,774	36,911	37,940
岩手県	370	389	401	390
盛岡	184	193	196	200
岩手中部	46	53	61	55
胆江	12	12	10	10
両磐	33	32	32	29
気仙	23	23	24	22
釜石	15	17	16	16
宮古	21	23	25	24
久慈	14	13	14	13
二戸	22	23	23	21

(出典：衛生行政報告例（厚生労働省）)

### 4 分娩取扱医療機関数

病院は2施設、診療所は15施設減少しており、胆江、気仙・釜石、久慈・二戸圏域では分娩取扱診療所がない状況である。

周産期医療圏	保健医療圏	H23.4.1 現在		R4.4.1 現在	
		病院	診療所	病院	診療所
盛岡 宮古	盛岡	3	11	3	7
	宮古	1	2	1	1
岩手中部 胆江 両磐	岩手中部	2	3	2	2
	胆江 両磐	0	5	0	0
気仙 釜石	気仙	1	0	1	0
	釜石	1	1	0	0
久慈 二戸	久慈	1	1	1	0
	二戸	1	1	1	0
計		12	27	10	12

(岩手県医療政策室調査)

## 5 分娩取扱件数

分娩取扱件数は、平成 21 年と比較して 3 割程度減少している。

周産期医療圏	保健医療圏	H21 年		R2 年	
		分娩取扱 件数	圏域別 出生数	分娩取扱 件数	圏域別 出生数
盛 宮	盛	4,572	3,903	3,551	2,874
	宮	670	604	381	384
岩 手 中 部 胆 江 両 磐	岩 手 中 部	1,633	1,791	1,274	1,196
	胆 江	828	1,052	297	733
	両 磐	1,338	931	869	583
気 釜	気	629	409	404	279
	釜	212	375	100	184
久 二	久	406	464	114	276
	二	569	375	350	209
計		10,857	9,904	7,340	6,718

※ 1 分娩取扱件数は、当該年度の件数（県医療政策室調査）

※ 2 圏域別出生数は、当該年の件数（人口動態統計（厚生労働省））

## 6 小児医療施設の状況

病院、診療所の数は、ともに減少傾向にある。

	H23 年	H26 年	H29 年	R2 年
病院数	42	42	41	39
診療所数	40	41	39	38
計	82	83	80	77

（県医療政策室調査）

※ 病院は小児科を標榜する一般病院であり、診療所は主として小児科を標榜している診療所であること。